社会司牧通信

202509

★印はカトリック関連

平和の使徒推進本部 正義と平和推進デスクでは、教会が社会へ発信しているメッセージや社会の中で活動する団体の情報をお知らせします。社会へのチャレンジの第一歩として、積極的にご参加ください。

★教皇レオ十四世、 2025 年 9 月 1 日「被造物を大切にする世界祈願日」メッセージ

★平和の使徒推進本部 講演会のお知らせ

『フランシスコ教皇のエコロジーへの思いに応えて
～エコロジカルな回心への招き』

講話：中井淳 SJ（イエズス会：ロクスひよりやまキャプテン）
日時：2025 年 9 月 21 日(日)　ミサ：9:30～
講話 10:45～
場所：世界平和記念聖堂
講話のみ YouTube 配信あり

2025 すべてのいのちを守る月間 講演会のご案内 広島司教区

★ラウダート・シ 10 周年記念シンポジウム

「エコロジカルな霊性--和解を生きるーー」
日時：2025 年 10 月 4 日(土)13 時～16 時
会場：福岡サン・スルピス旧神学院
参加費：無料
申込み：申込不要。直接会場に起こし下さい。
オンライン参加：以下のリンクから申込み（直前まで可能）

オンライン申込先

http://ws.formzu.net/fgen/S822703910/

・詳細　⇒　「ラウダート・シ」10 周年シンポジウム｜ラウダート・シ部門

★2025 年すべてのいのちを守るための月間 「ラウダート・シ」部門　担当司教メッセージ 「聖年におけるエコロジカルな回心」｜カトリック中央協議会

教皇フランシスコの 2019 年の来日テーマを受けて日本の教会に設けられた「すべてのいのちを守るための月間」というこの特別な期間は、世界的にはキリスト教諸教派が合同で祝う「被造物の季節（Season of Creation）」に当たるものです。今年のテーマは**「被造物との平和（Peace with Creation）」**で、イザヤ書 32 章 14 節－18 節にもとづいて祝われます。

●被爆 80 周年世界核被害者フォーラム

https://mp-nuclear-free.com/Nuclear/2025_WNVF_01.html

日時：10 月 5 日(日)～6 日(月)　会場：広島市中区アステールプラザ

ヒロシマで世界の核被害者の証言を聞く貴重な機会です。核被害は原爆だけにとどまりません。
「ヒロシマから世界に届けよう！　核と人類は共存できない！　ヒバクシャの救済と人権獲得を！
世界の核被害者と共にヒロシマに集い、連帯の絆を結ぼう！」

チャレンジコラム vol.35

『マコはハルモニア・ムンディにのって踊る 』（4）核なき世界をめざして

ロクスひよりやま　キャプテン　中井 淳 SJ
（旧下関労働教育センター　イエズス会神父）

今年も、平和行事の季節がやってきた。特に原爆が落とされてから 80 年という節目で、この教区の司教さまが力を注いできた「核なき平和のためのパートナーシップ」が少しずつ前に進み、今年はアメリカから平和巡礼団もやってきている。マコは大学時代に出会ってからずっと友情を育んできたハヌンと一緒に、広島と長崎を平和巡礼することに決めた。自分の所属している広島教区では「ラウダート・シ」デスク担当のまゆみさんが声をかけてくれ、いくつかの役割も与えられている。

初日のシンポジウムはマコも司会進行役を引き受けることになった。アメリカの司教や日本の司教、被爆者団体の方々が発言していく。スピーチを聞く時間が続き、少し集中力が途切れそうになった時に、名古屋の司教さまが、韓国人原爆犠牲者慰霊碑について言及し、はっとマコの意識が再び覚醒した。栗原貞子さんの詩「ヒロシマというとき」を思い出す。

＜ヒロシマ＞といえば＜ああヒロシマ＞とやさしくは返ってこない。アジアの国々の死者たちや無告の民がいっせいに犯されたものの怒りを噴き出すのだ。＜ヒロシマ＞といえば、＜ああヒロシマ＞とやさしくかえってくるためには捨てた筈の武器をほんとうに捨てねばならない。

会衆席のハヌンの方を見やる。ハヌンは在日朝鮮人として日本で生きてきた。小中学校は朝鮮学校に通った。彼は、マコが知らなかった、朝鮮半島の人々から見た日本の歴史を教えてくれる存在だ。名古屋の司教さまが、それを物語る韓国人慰霊碑について触れてくれたことは、ハヌンの気持ちに思いを馳せながら、本当にありがたかった。そして、韓国原爆被害者対策特別委員会の委員長が、再び、朝鮮半島出身の被爆者たちのことを忘れないでほしいと語られた。この二人のメッセージが特に深くマコの心を打ったのだった。

「**捨てた筈の武器をほんとうに捨てねばならない**」栗原貞子さんの言葉をかみしめる。福島で生まれ、2011 年３月 11 日の東日本震災とそれに伴う福島原発の事故を小学生時代に体験したマコにとって、それは人ごとではなかった。日本があの未曾有の原発事故を経験してもなおかつ原発政策を推進し続けるのは、核兵器開発技術を保有するためだと言われている。福島の希望牧場の被爆した牛さんたちの姿を思い起こしながら、そしてハヌンと育んだ友情を振り返りながら、「ほんとうに捨てねばならない」の気持ちを新たにした。

会場を出ると、大好きな沖縄の司教さんがいらっしゃった。マコを大きな体でハグしてくれる。神様に愛されていることを感じる瞬間だ。そう、沖縄にもまた行かなくちゃ。

８月９日、マコはハヌンとともに、長崎を再び訪れた。浦上天主堂の小さな聖堂に置かれている被曝のマリアの前でマコは祈りながら思うのだった。核なき世界を目指し、本当の平和を作っていくことは、原発の問題に向き合うことなのだ。あの平和記念公園の原爆の犠牲となった朝鮮の人々の慰霊碑に向き合い、痛むことなのだ。そうしなければ、ヒロシマ教区に生きる者として平和を語ることはできないのだ、と。　（つづく）

★カトリック広島教区 ハラスメント相談窓口 ：広島教区人権擁護デスク★
受付時間　木曜日（祝日を除く）9:00～16:00　　電話番号 082-555-1127
メール：desk-hiroshima@catholic.hiroshima.jp

＊＊＊H·Social＊＊H·Social＊＊H·Social＊＊H·Social＊＊H·Social＊＊H·Social＊＊＊

発行 カトリック広島教区 平和の使徒推進本部 正義と平和推進デスク
TEL：082-221-6613　FAX：082-221-6019　E-Mail info@social-desk.net